



「富山市コンパクトシティ・スマートシティ」 現地研修報告

鳥取県測量設計業協会
総務委員 生西 克徳

2023.10.25

現地研修概要

1. 実施日 令和5年6月8日(木)～6月9日(金)
2. 研修場所 富山県富山市
3. 参加者 協会会員25名 県技術企画課1名、計26名
4. 研修内容 「富山市コンパクトシティ・スマートシティの計画、
実施状況について」(まちづくりDX、建設DX等)

研修の流れ(1/7)

①6月8日(木)13時に到着し、富山市役所において職員の方から以下の説明を受けた。

○富山市コンパクトシティの概要

○富山市スマートシティの概要

○富山市コンパクトシティ及びスマートシティに関する現地視察
(中心市街地 ～ LRT ～富山駅周辺など)

②説明終了後、富山県測協の案内で富山市岩瀬地区のまち並みを視察。その後、測協役員の方々(10名)と意見交換を行った。

研修の流れ(2/7)



富山市による概要説明の様子（富山市役所）

研修の流れ(3/7)



富山市による中心市街地説明の様子

研修の流れ(4/7)



富山駅北口 再開発状況

研修の流れ(5/7)

③翌日6月9日午前中、新日本コンサルタント社屋において、富山県測協会員企業が取組まれた「まちづくりDX・社会インフラDX」等について説明を受けた。

④終了後、街並みを視察しながら移動し、全員富山駅にて解散。

研修の流れ(6/7)



まちづくりDX等の説明の様子

研修の流れ(7/7)



現地案内:富山駅前の歩道散策(イベント広場)

富山市コンパクトシティ

富山市は、コンパクトシティの成否のカギは都市交通体系の利便性であるという認識のもと、政策を決断する上での重要なファクターとして、以下の特徴を有していた。

- ①富山市は太平洋戦争により焼け野原となり、復興の際、先人たちが都市空間を広くすべく計画され、道路敷地や街区敷地を広く確保していたこと
- ②富山市は平野部が広くかつ起伏が少ないため、従来から路面電車を主要な都市交通システムとして運用していたこと
- ③富山市の人口が合併により約40万人に増大したこと
- ④北陸新幹線の停車駅として決定され、JR富山駅の再整備や駅周辺の大規模再開発が可能となったこと
- ⑤新幹線開通により観光客などの流入人口の増大が見込まれたことなど。



富山市スマートシティ



富山市のスマートシティ施策は当初、コンパクトシティ政策の深化と移転できない住民への補完を目的として始められたそうだ。

しかし今では、今後の人口減少の進展を考慮した「まちづくり」として、とても重要な政策に位置付けられている。

そしてスマートシティ施策を推進する上で、まず富山市全域をカバーするLPWA通信網と情報を集約するIoTプラットフォームをいち早く整備し、デジタル化を強力に推進したそうです。

それにより今では、多様な民間活力(DX等)の誘導や創出が伸展しているという。



スマートシティ官民連携プラットフォーム 先行自治体の取組に関する紹介 (富山県富山市)
(MLIT channel)
<https://www.youtube.com/watch?v=BDXhwW6luaQ>
(参照 2023.10.10)



ご清聴ありがとうございました。